

健やか親子21推進協議会参加団体の行動計画

取り組みのテーマ一覧

番号	課題1 思春期の保健対策の強化と健康教育の推進
1	十代の自殺の予防
2	十代の人工妊娠中絶の予防
3	十代の性感染症罹患の予防
4	15歳の女性の思春期やせ症（神経性食欲不振症）の発生子防と治療の促進
5	薬物乱用の有害性について若者への知識の普及・啓発
6	十代の喫煙の防止
7	十代の飲酒の防止
8	避妊法に対する若者の知識・技術の普及・啓発
9	性感染症に対する若者の知識の普及・啓発
10	学校保健委員会の開催と開催への支援の強化
11	外部機関と連携した薬物乱用防止教育等の推進
12	スクール・カウンセラーの配置と相談機能の強化
13	思春期外来（精神保健福祉センターの窓口を含む）・病棟等の整備

番号	課題2 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援
14	妊産婦死亡の防止
15	満足できる妊娠・出産への支援
16	産後うつ病を含む心のケアの促進
17	妊娠11週以下での妊娠の届け出の促進
18	母性健康管理指導事項連絡カードの普及・啓発
19	周産期医療ネットワークの整備と機能の向上
20	産婦人科医・助産師の確保と養成の推進・資質の向上
21	不妊専門相談センターの整備と機能の向上
22	不妊治療を受ける際の環境の整備と関係者の資質の向上（カウンセリング）

番号	課題3 小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備
23	周産期死亡の防止
24	極低出生体重児・低出生体重児の出生数の減少
25	新生児死亡／乳児（1歳未満）死亡の防止
26	乳児のSIDS死亡の防止
27	幼児（1～4歳）死亡の防止
28	不慮の事故死亡の防止
29	妊娠中の喫煙の防止・育児期間中の両親の自宅での喫煙の防止
30	妊娠中の飲酒の防止
31	かかりつけ小児科医制度の推進
32	休日・夜間の小児救急医療機関の保護者への周知
33	家庭での事故防止対策の推進
34	風呂場のドアに工夫するなど具体的な事故防止対策の推進
35	保護者への心肺蘇生法の周知
36	乳幼児期のうつぶせ寝の防止
37	予防接種（BCG）の必要性の周知と接種の勧奨の強化
38	予防接種（三種混合・麻疹）の必要性の周知と接種の勧奨の強化
39	初期、二次、三次の小児救急医療体制の整備
40	関係機関での事故防止対策の推進
41	小児科医師・新生児科医師・児童精神科医師の確保と養成
42	院内学級・遊戯室等の小児病棟施設の充実
43	慢性疾患児等の在宅医療の支援体制の整備と充実

番号	課題4 子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減
44	虐待による死亡の防止
45	虐待の発生子防、早期発見・対応、児の保護・支援の推進
46	子育てに自信が持てるような支援の推進
47	子どもを虐待していると思う親への支援の強化
48	親がゆったりとした気分で子どもと過ごすための支援の推進
49	育児について相談できる環境の整備
50	父親が育児に参加できる環境の整備
51	父親が子どもと一緒に遊べるような環境の整備
52	母乳育児の推進
53	周産期医療施設から退院したハイリスク児へのフォロー体制の確立
54	受診者が満足いく乳幼児の健康診査の実施の推進
55	育児支援に重点をおいた乳幼児健康診査の実施の推進
56	児童相談所の体制の整備・強化（児童精神科医の常勤等）
57	情緒障害児短期治療施設の整備
58	育児不安・虐待親のグループの活動への支援
59	親子の心の問題に対応できる技術を持った小児科医の確保・養成

番号	健康日本21に含まれる母子保健に関する取組のテーマ
60	栄養・食生活の改善
61	身体活動・運動の推進
62	歯の健康の推進

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）

-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
2.(社福)恩賜財団 母子愛育会	1.2.3.4.5.	<p>15年度の取り組み実績</p> <p>1. 母子保健関係者に対する研修会・講習会の実施 目的・対象者及び参加人員 ① 保健師に対し、母子保健に関する最新知識と今日的課題への対応及び保健指導技術を修得させた。自治体の保健師 100名 ② 栄養士に対し、乳幼児期の食生活・栄養に関わる知識・情報を提供し、栄養相談を展開するための技術を学ばせた。自治体勤務の栄養士 30名 ③ 母子保健の課題と最新情報に関する講義、事例研究等により、専門指導員を育成した。自治体勤務の保健師・助産師・看護師等 30名 ④ 医師、助産師及び看護師に対し、新生児・未熟児の診断・治療・看護等に関する最新の理論と技術を提供した。医師・助産師・看護師 290名 ⑤ 臨床検査技師に対し、最新の技術と情報を提供し、技術者の資質を高めた。先天性代謝異常症等検査技術者 50名</p> <p>2. 子ども家庭福祉情報等の提供事業 目的～子ども家庭福祉に関する各種情報を幅広く関連機関職員や研究者等に提供した。 情報収集リスト～①国の施策、審議会、懇談会等②虐待問題、里親問題等③病気・医療 ④健やか親子21関連⑤子育て支援 ⑥児童福祉施設・養護施設 ⑦障害児に関すること等 Web版「愛育ネット」による情報提供～解説論文・行政情報及び統計情報 専門図書資料の収集及び閲覧～蔵書数 約5千冊、文献資料 約1,500件</p>	<p>16年度の取り組み行動計画</p> <p>平成15年度の取組実績に準じ、下記のとおり実施する計画である。</p> <p>1. 母子保健関係者に対する研修会・講習会の実施 実施内容及び対象範囲を再検討して実施する。</p> <p>2. 子ども家庭福祉情報等の提供事業 内容の充実を図り、実施する。</p> <p>3. 愛育班員等研修会 愛育班員の拡充と指導員の増員を図る。</p> <p>4. 子ども総研式・子育て支援質問紙の作成・頒布 設問内容を要望に添ったものに再検討し、作成する。</p> <p>5. 専門里親養成教育の開催 地方自治体からの要望に応じられるよう、関係方面と協議して実施する。</p>
2.(社福)恩賜財団 母子愛育会		<p>3. 愛育班員等研修会～市町村の愛育班員及び各保健所の保健師を対象に、中央及び地方における指導者・講師の派遣及び研修会等の開催 10回</p> <p>4. 子ども総研式・子育て支援質問紙の作成・頒布～育児不安の軽減を図るために、育児不安の関連要因を評定できるような質問紙を作成し、頒布した。</p> <p>5. 専門里親養成教育の開催～厚生労働省が平成14年度から導入した「専門里親」を養成するための理論と実践について教育した。 100名</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）  
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団 体 名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
5. 子どもの心・体と環境を考える会	思春期の健康教育に関する学際的なエビデンスの集積	<p>○ 研究会誌「子どもの健康科学」第4巻1号発行 第4回学術大会の講演およびシンポジウム（「現代の子育てに対する地域支援の在り方」「わが国の将来を担う子どもの健全な育成のために」）について、演者が論文化した研究会誌200部を発行、配布した。</p> <p>○ 第5回学術大会開催 平成15年12月12日(金)13日(土)の両日、千葉大学けやき会館にて開催。参加人数約150名。「今考えよう！子ども達の環境と未来を」をメインテーマとし、2つのシンポジウム、2題の講演、3セッション11題の一般演題発表が行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンポジウムⅠ：「飯倉教授追悼シンポジウム」</li> <li>・シンポジウムⅡ：「生き生きとした子どもを育む環境作り」</li> <li>・特別講演：「小児と環境ホルモン」</li> <li>・教育講演：「こどもの心身症」</li> </ul> <p>・その他一般演題では、「中学生における規範意識が学校ストレスおよび学校生活の楽しさに及ぼす影響」「小・中学校における慢性疾患患児の体調管理上の困難－養護教諭を対象とした質問紙調査から－」「携帯電話を介した人間関係と愛着の関わり」等、《課題1》に関連した研究報告がなされた。</p> <p>○ 第2回テーマ別研究会開催 平成16年3月13日(土)、東京医科歯科大学臨床第二講堂にて開催。参加人数50名。「第1部：研究方法立案ベシック－疫学を中心とする研究のデザインと倫理－（京都大学大学院医学研究科助教授：中山健夫先生）」「第2部：質的研究パート2－テキスト型データ解析の進め方：量的研究と質的研究のインターフェイス－（久留米大学大学院心理学研究科教授：津田 彰先生）」。</p>	<p>○第5回学術大会開催 河野陽一大会長（千葉大学大学院医学研究院小児病態学・教授）の下、平成15年12月12日(金)13日(土)に第5回学術大会を開催予定。参加人数200名程度を予定。</p> <p>○会員の質的向上を目指した研究会「テーマ別研究会」において、子どもに関する、研究や実践に役立つ課題を取り上げる。</p> <p>○研究会誌「子どもの健康科学」第4巻 第1号・第2号を発行する。</p> <p>○会員相互の情報交換・意見交流を目的としたメーリングリストの活用。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）  
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
7.(財)性の健康医学財団	3.9.十代の性感染症の罹患の予防と性感染症に対する若者への知識の普及・啓発	<p>3.9.十代の性感染症の罹患の予防と性感染症に対する若者への知識の普及・啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 「性の健康相談室」の設置ならびに専門医による「性の健康相談」の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームページの案内や保健所の紹介により44名が来診した。</li> </ul> </li> <li>* 専門の相談員による「性の健康Eメール相談」の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談件数：2,914件（7月～3月）</li> </ul> </li> <li>* 第3回性の健康週間（平成15年11月25日～12月1日）の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的（主題）：若い人たちの性感染症予防のために、健やか親子21運動との連携を図り、性の健康医学思想の普及啓発を集中的に行う。</li> <li>・ メインイベント：市民公開講座「性感染症・エイズ-知ろう、話そう、予防しよう」（11月26日、静岡市）</li> <li>参加人数（対象者）：約120名（学校関係者、保健衛生関係者、医学・医療関係者など）</li> <li>・ 「性の健康週間」のポスター(1,000部)・チラシ(5,000部)の作製・配布（ポスターはホームページからのダウンロードも可能とした。）</li> </ul> </li> </ul>	<p>3.9.十代の性感染症の罹患の予防と性感染症に対する若者への知識の普及・啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 専門医による「性の健康相談」の実施</li> <li>* Eメールによる「性の健康相談」の実施</li> <li>* 第4回性の健康週間（平成16年11月25日～12月1日）の実施</li> <li>* “性の相談”に関する研修会・セミナーの講演依頼への対応</li> <li>* 一般市民を対象とした公開セミナーの開催</li> <li>* ホームページ(パソコン・モバイル版)コンテンツの充実と情報提供</li> </ul>
7.(財)性の健康医学財団		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「エイズ/性感染症をめぐる問題点」の作成・配布（性感染症予防啓発のための一般向け小冊子、国、各自治体、関係団体などに6,000部配布）</li> <li>・ 「性の健康相談」に関するリーフレット(2種各25,000枚)及びカード型メッセージカード(2種各25,000枚)の作成・配布</li> <li>* “性の健康”に関する研修会・セミナーの講演依頼への対応（6件）</li> <li>* コンドーム研究会の開催（平成15年7月23日・東京・参加者：約110名）</li> <li>* 一般市民を対象とした公開セミナーの開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2月1日 科研費成果発表会「ポジティブ・エイズ・トーク」（北九州市）（80名参加）</li> <li>・ 2月12日科研費成果発表会「性感染症・エイズ-知ろう、話そう、予防しよう」（練馬区）（206名参加）</li> </ul> </li> </ul>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）  
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
10. 全国市町村保健活動協議会 (NPO)	44.虐待による死亡の防止 45.虐待の発生予防、早期発見・対応、児の保護・支援の推進 58.育児不安・虐待親のグループの活動への支援		3テーマに共通の計画として ※機関誌による情報提供等の継続 前年とほぼ同様の取り組みをおこなう。 ※調査研究事業の継続 ひろく保健活動を対象とするが、その中で母子保健関連の調査事項の選定を検討、実施する。 前年度調査のモデル市町村の活動状況を機関誌に掲載、紹介する。 ※研修会の継続 全国研修における講演、シンポジウム及びグループ討議の中に、関連のテーマを設定する。 地方研修会(ブロック別、各県別)に対し、支援、助成を行う。地方研修会の実施内容を掌握整理する。
13. 全国助産師教育協議会	「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」に関する助産師教育の検討	<p>※ 第39回全国助産師教育協議会総会を開催 期間：平成15年5月16日(金)～17日(土) 場所：東京都立保健科学大学</p> <p>1. 教育制度委員会では、「助産基礎教育における教育のコア」の検討を行い、「思春期女性の支援」をあげ、性感染症に関する予防と支援や月経障害をもつ女性に対する支援などの教育内容について検討中。</p> <p>2. 「避妊法・経口避妊薬」に関して、平成15年1月、全国の助産師教育機関111校の教育担当責任者を対象に、教育の実態調査を行った。回答のあった62校では、助産師教育における思春期に関する教育内容について「現在の内容で十分」は29.0%で、「さらに充実したい」が71%であった。これらの調査結果に基づいて「避妊法・経口避妊薬」に関する助産師教育案を検討中。</p> <p>※ 全国助産師教育協議会NEWS LETTERの発行(年4回)</p> <p>1. NEWS LETTER No41 2003.10.24 関連記事① 宮崎文子氏の「望まない妊娠の防止に向けて専門家は何をしていますのでしょうかー助産師の資格を有する受胎調節実地指導員のアンケート調査よりー」</p> <p>2. NEWS LETTER No42 2004.2.26 関連記事② 宮崎文子氏の「受胎調節実地指導員としての継続教育状況と活動頻度」</p> <p>※ 共催事業 テーマ：避妊と性感染症予防のための実践セミナー(主催＝日本家族計画協会)</p>	<p>1. 第40回全国助産師教育協議会総会を開催 期間：平成16年5月21日(金)～22日(土) 場所：東京都立保健科学大学</p> <p>2. 全国助産師教育協議会NEWS LETTERを継続的に発行 ・NEWS LETTER のなかに、関連記事を取りあげる。</p> <p>3. 第30回全国助産師教育協議会研修会を開催 期間・内容は未定</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）  
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
15. 全国保健所長会	5.11.	<p>5.薬物乱用の有害性について若者への知識の普及・啓発 *講演会、研修会の実施 目的 薬物乱用に関する現状と薬物乱用の有害性を訴えると共に、青少年には使用を誘われた時の断り方など伝えたり、周囲の人々に青少年を護ろうという意識を持ってもらったり、将来的には再乱用防止のためのシステム作りを目指した。 対象者 中・高生、教職員、ネットワーク構成員、PTA、一般市民等延べ4,460人受講。 開催数 平成15年9月～平成16年3月に18回開催 講師 熱心に薬物乱用防止活動を展開している「元・現教員3人」、「依存症治療病院等医師2人」、「ダルク等関係者3人」等幅広い立場の専門家を招いた。 効果 「薬物乱用はテレビの中の世界」と多くの方が考えていたが、いろいろの立場の大勢の講師から薬物乱用に関する現状や、その有害性について聞くことによって、自分や自分の子供・孫と関わりのないことではない事を認識するようになった。</p>	<p>地域保健推進特別事業補助金を申請中、補助金が得られなければ出来る範囲内での事業に縮小される。 5.薬物乱用の有害性について若者への知識の普及・啓 *薬物乱用防止講演会 ・目的 各中学、高校において、生徒や保護者に薬物乱用の本質、影響、実態、断り方などを啓発し、乱用防止の抑止力とする ・開催回数 15回 ・開催場所 各中学校、高等学校 ・人数 100～800人 *ティームティーチング講師派遣及び学習機会の提供 ・目的 幼児、児童、生徒に「くすり」と食べ物の違いや、「くすり」の正しい使い方などの正しい知識を伝え、乱用防止の基礎的抑止力とする ・期間 平成16年9月～平成17年3月 ・対象 各学校クラス、グループ単位で20回 *生徒薬乱防止自主活動支援 ・目的 生徒が自主的に行う薬乱防止活動の支援 ・期間 平成16年9月～平成17年3月 ・方法 情報提供や人的、物的支援 ・支援数 人的・物的支援については10回</p>
15. 全国保健所長会		<p>* 薬物乱用防止パンフレットの作成 目的 学校の授業に活用して青少年に薬物乱用に関する現状と薬物乱用の有害性を伝えるとともに、地域の住民にも薬物乱用について理解しやすい形でピーアールし、「薬物乱用をしない、させない地域づくり」に寄与する。 対象者 市内全世帯 および中学、高校 並びにネットワーク参加機関・団体 特色 薬物乱用のメカニズムを平易に解説していること、地域のアンケート結果の要点、薬物乱用防止教室で質問の多かった事項の Q and Aを入れた地域の特性を盛り込んだものであること</p>	<p>11.外部機関と連携した薬物乱用防止教育等の推進 *薬物乱用防止ネットワーク推進協議会 ・目的 関係機関、団体の活動の連絡調整をはかる ・開催回数 年 2～3回 ・開催場所 保健福祉事務所等 ・人数 28人/回 * 桐生「くすり」教育研究会 ・目的 前年の反省を踏まえ薬物乱用防止を図るには、家庭および小学校からの薬物理解教育が必要であり、そのためには指導者育成と教材の作成が求められる。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）  
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
15. 全国保健所長会		<p>11.外部機関と連携した薬物乱用防止教育等の推進 *連携組織の構築 1 目的 従来からの縦割り型活動は有効性が低いことから、これまで余り連携のなかった警察関係、保健衛生関係の機関・団体に教育・福祉・ボランティア関係の機関・団体も合わせた「薬物乱用防止ネットワーク推進協議会」を立ち上げ、学校を中心とした薬物乱用防止活動に一体的に連携・協力して取り組むことにした。 また、従来から有る県単位での連携組織では組織が大きすぎて、地域での実効性に乏しかった。 対象者 某県内某市内の各組織・団体の代表28名 開催数 2回 効果 以前には見られなかった、各組織・団体の連携協力が見られるようになった。</p>	<p>養護教諭や保体等各科教諭中の希望者、学校薬剤師など有志で研究会を組織し、薬物乱用防止教育や「くすりの正しい知識」の教授法や教材を開発する。先進地視察も含む。 ・開催回数 年6回 ・開催場所 保健福祉事務所等 ・人数 20人/回 *薬物乱用防止研修 ・目的 校長、教頭や生徒指導主事の先生方に、薬物乱用の何が問題なのか、乱用者を探知した時ただ切り捨てるのではなく、どの様に対応すべきかを理解頂くための研修 ・回数 年3回 ・開催場所 市民文化会館研修室 ・人数 60人/回</p>
15. 全国保健所長会		<p>* 連携組織の構築 2 目的 「薬物乱用防止ネットワーク推進協議会」の下部組織として、「薬物乱用防止研究会」を同時に立ち上げ、定期的に会合を持って従来の啓発活動の問題点や解決方法の具体的検討などを進め、市内での効果的な薬物乱用防止対策を総合的に検討し、実施可能な対策を打ち出す、実質的な推進組織とする。あわせて、薬物乱用防止に関する研究・研修の場としても位置づけ、薬物乱用防止に関する授業において教授できる人材を育成することや、講演会・研修会の企画、並びに中・高生用アンケート調査及び教職員用アンケート調査の原案作成等行う。 対象者 教育関係者を中心とするネットワーク構成組織からの有志14名 開催数 8回、この他会員は各所で開かれた各講演会に積極的に参加し学習した。 効果 会員は、薬物乱用の実態などへの認識を深め、まだ一部の会員であるが、講演会の講師をつとめるようになった者も出ている。</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）  
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
17. 全国保健師長会	1.2.3.8.9.	<p>1 十代の自殺予防 2 十代の人工妊娠中絶の予防 3 十代の性感染症罹患の予防              8 避妊法に対する若者の知識・技術の普及・啓発              9 性感染症に対する若者の知識・技術の普及・啓発              * 思春期健康教育              目的：思春期の性感染症の防止や人工妊娠中絶の減少をめざして学校教育と連携をとり、知識技術の普及啓発を実施する。更に乳幼児とのふれあいを通していのちの尊厳を学ぶ。              参加人数（対象者）：26,610人（小中高校生、保護者）              開催数、方法等：175回 学校行事で実施。              効果、その他：              ・中学生の感想として「身体を大事にしようと思った。」              ・性感染症は恐ろしいということがストレートにつながったとあった。              ・自己決定能力の育成につながったと考える。              ・性に関する知識の曖昧な点と性に関する児童の本音を聞くことが出来た。              * 思春期赤ちゃんふれあい体験学習              目的：生命の尊厳と母性、父性の涵養をはかる。              参加人数（対象者）：9,816人（小中高校生）              開催数、方法等：70回              効果、その他：              ・体験後、赤ちゃんに対するプラスのイメージが増加した。              ・体験後育児ボランティアに参加した子もいた。</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）  
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
17. 全国保健師長会	2.3.6.7.8.9.	<p>20代の人工妊娠中絶の予防 8 避妊法に対する若者の知識・技術の普及・啓発            30代の性感染症疾患の予防 9 性感染症に対する若者の知識・技術の普及・啓発            * 思春期相談            目的：身体的精神的問題、性に関する不安や悩みについて相談を行い、豊かな人間性や社会性を身につける。            参加人数（対象者）：143件            開催数、方法等：電話・面接・メール            効果、その他：            ・専用電話やメールで相談を受けることにより、利用者の便宜がはかられた。            * エイズ関連行事            目的：思春期の青少年がエイズや性について理解を深め、性感染症を予防する。            参加人数（対象者）：2,015人（小、中、高校生）            開催数、方法等：パネル展示 1回 講演8回            効果、その他：・エイズや性について理解をはかった。            20代の人工妊娠中絶の予防 30代の性感染症疾患の予防 70代の飲酒の防止            8 避妊法に対する若者の知識・技術の普及・啓発 60代の喫煙の防止</p>	
17. 全国保健師長会		<p>9 性感染症に対する若者の知識・技術の普及・啓発            * 健やか親子キャンペーン相談事業            目的：エイズを含めた若者の性感染症の急増について説明し、性感染症の蔓延を防ぐ。            参加人数（対象者）：781人            開催数、方法等：静岡支部でイベント時に開催。パネル展示 相談 アルコールパッチテスト            効果、その他：・エイズや性感染症について理解をはかると共に、思春期の課題でもある飲酒、喫煙問題の投げかけをした。</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）  
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
17. 全国保健師長会	3.6.9.10.	<p>30代の性感染症罹患の予防 9 性感染症に対する若者の知識・技術の普及・啓発            10 学校保健委員会の開催と開催への支援の強化            * 思春期保健従事者研修            目的：性感染症の現状を学び、疾病について理解を深める。又、関係者が共通理解をし、思春期の子どもをサポートする関係者の資質向上と拡大を図る。            参加人数（対象者）：614人（学校関係者 保護者 保健関係者等）            開催数、方法等：5回            効果、その他：・養護教員以外の教員の関心も高くなった。            行政・学校・地域の連携のもとに推進することが重要である。            6 十代の喫煙防止            * 児童生徒の喫煙防止対策事業            目的：地域・学校等の関係者で構成するたばこ対策推進協議会を設置し、児童生徒の喫煙防止にむけて強力な実践活動を展開する。            参加人数（対象者）：990人（小、中、高校生）            開催数、方法等：喫煙に関する意識及び実態調査 小学校6 中学校2 高校1            喫煙防止教育実施 小学校260人中学校440人高校290人            研修会の実施 行動計画の策定            効果、その他：・学校・地域連携のもとで喫煙防止教育内容の方向性は確保出来た。            ・児童の作文にも「たばこの害がよくわかった。」と感想があった。</p>	
17. 全国保健師長会		<p>* 子どもたちの防煙防止研修会            目的：関係者が子ども達の喫煙問題を知り、防煙対策の必要を認識することで地域ぐるみの防煙対策につなげる。            参加人数（対象者）：57人            開催数、方法等：1回            効果、その他：・市町村の関係者が取組を明確にすることによって喫煙問題を共有することができた。</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）  
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
17. 全国保健師長会	6	<p>6 十代の喫煙防止 * 児童生徒の喫煙防止対策事業 目的：喫煙の健康に及ぼす害について考える。 参加人数(対象者):調査9校 喫煙防止教育9,529人 開催数、方法等：喫煙に対する意識・実態調査 喫煙防止教育 96回 効果、その他：学校関係者、地域保健関係者の連携のもとで小学生の喫煙防止教育内容の方向づけは確保できた。 ・内容が実験、視覚に訴えるものを活用したことで好評であった。</p>	
18. 全国養護教諭連絡協議会	3.5.9.感染症対策、薬物乱用への対応、エイズ・性教育、養護教諭の資質向上に関する研修	<p>3.5.9.サーズ・薬物乱用・エイズ・性教育に関する知識の普及とその対応 及び予防教育の進め方についての普及・啓発。 * 研修会を開催 ○第6回研修会 (1) 目的(テーマ):サーズ・薬物乱用・エイズに関する情報伝達、予防対策についての具体的な対応や指導法を研修する。 (2) 参加人数(対象者):200名(養護教諭) (3) 開催月日:平成15年8月26日・27日・28日(3日間) (4) 開催場所:国立刈谷記念青少年センター (5) 研修内容: 1 サーズをはじめとする感染症対策について 講師;国立感染症研究所感染症情報センター 砂川 富正 2 規制薬物を乱用する生徒への対応における学校と取締機関との連携 講師;国立下総療養所薬物依存研究室長 平井 慎二 3 エンカウンターの実際と理論 講師;聖徳栄養短期大学人文科学系助教授 岡田 弘 4 エイズで教えること 講師;(社)地域医療振興協会NLP®セッション研究センター長 岩室 紳也 5 エイズ教育のあり方 講師;(社)日本家族計画協会クリニック所長 北村 邦夫 6 ライフスキルを育てる指導法の実際 講師;川口市立戸塚中学校養護教諭 村木 久美江</p>	<p>3.4.5.6.7.9.10.及びカウンセリングに関する知識の習得に関する研修 * 研修会を実施 開催数を2回に拡大 1 平成16年7月28日・29日 2 平成16年8月16日・17日 場所:国立刈谷記念青少年総合センターで実施予定 参加人員:200名程度を予定 * 研究協議会を開催 開催月日:平成17年2月25日(金) 開催場所:メルパルク東京ホール</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）  
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
18. 全国養護教諭連絡協議会		<p>○健康教育に関する知識の普及と指導の強化 * 研究協議会を開催 （1）目的：現代的な健康課題への健康教育の進め方と養護教諭の役割について啓発・指導の強化を図る。 （2）参加人数（対象者）：1500名（養護教諭） （3）開催月日：平成16年2月27日 （4）開催場所：メルパルク東京ホール （5）研究内容 1 特別講演「子どもの脳に何が起きているのか」 講師：東京大学名誉教授 養老 孟司 2 基調講演 講師：文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課 健康教育調査官 采女 智津江 3 フォーラム「養護教諭のこれまでとこれから」 コーディネータ 全国養護教諭連絡協議会副会長 安藤 節子 発表者 大阪府立河南高等学校長 森川 英子 江戸川区立篠崎第3小学校主幹 小松 良子 愛知教育大学大学院生 森田 のり子 川崎市立田島養護学校養護教諭 山田 カヨ子</p>	